日新聞　'22.8.11　信毎
第三種郵便物認可

別所温泉活性化へ旅館承継

建物新築 庭を強みに

後継者不在 老舗「緑屋吉右衛門」
↓
陣屋グループが来夏再開業へ

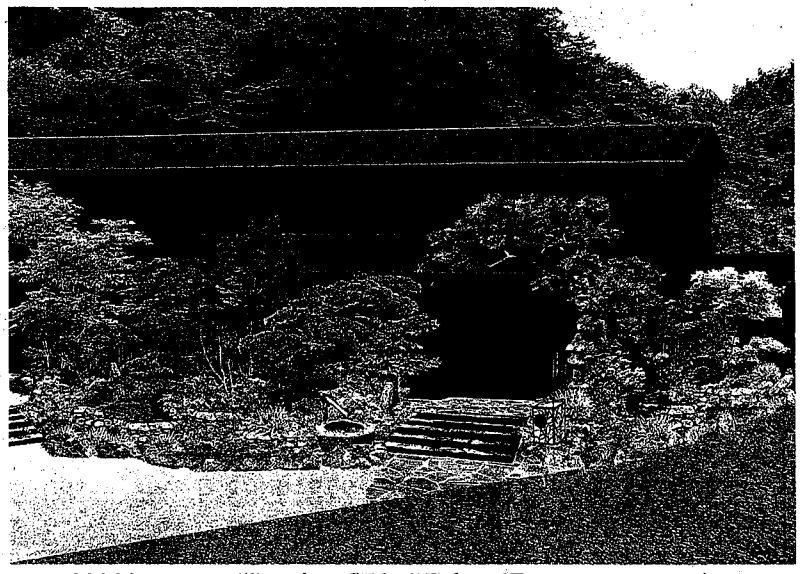
旅館業や旅館向けシステム開発・販売の陣屋グループが、後継者不在に悩んでいた別所温泉（上田市）の老舗旅館「緑屋吉右衛門」を承継し、2023年夏に再開業する。陣屋グループが、緑屋の経営相談に応じていたことが縁。建物を新築し、庭園デザイナーの石原和幸氏が庭を手がける。再開後は宿泊客に温泉街を周遊してもらうなど、地域活性化を経営の軸にする方針だ。

陣屋グループの旅館「元湯陣屋」（神奈川県秦野市）は1918（大正7）年創業。陣屋には10億円の負債があったが、顧客管理や予約システム、会計処理などを一元管理できるシステム「陣屋コネクト」を2010年に自社開発するなどして経営を立て直した。12年に同名のシステム開発販売会社（秦野市）を設立。現在、全国450以上のホテル・旅館が陣屋コネクトを導入している。

緑屋吉右衛門は創業約140年で、陣屋コネクトを導入。陣屋が経営相談に乗った最初の事例だった。後継者がおらず、21年2月に陣屋グループが事業継承。運営会社の緑屋旅館（上田市）の会長に陣屋の宮崎知子社長が、緑屋で支配人兼料理長だった大熊弘明氏が社長に就いた。旧経営者とは、緑屋の名前を残すことや別所温泉の活性化につなげることで合意し、土地や建物をほぼ無償で譲り受けた。

緑屋は既に休業中で、建て替えを経て「別所温泉　緑屋」として23年7月にプレ開業する予定。原則として朝食のみ提供し、宿泊客には地域の飲食店で夕食を取ってもらう。世界的な造園コンクールで受賞歴がある石原さんが庭をデザインし、コミュニティースペースも設ける予定。大熊社長は「別所温泉の活性化の一端を担いたい」と言う。

陣屋グループは23年上半期までに、長崎県と兵庫県にも旅館を開業する。石原さんとタッグを組み、旅館の再生支援などを「緑屋」ブランドで全国展開する考えという。



2023年夏に開業予定の「別所温泉　緑屋」のイメージ図

エラン 純利益23.2％増
主力の定額レンタルが堅調
6月中間期

エラン（松本市）は10日、2022年6月中間期の連結決算を発表した。入院患者や介護施設の入所者らに日額定額で衣類やタオルを貸し出す主力サービス「CSセット」が堅調で、売上高は前年同期比15・7％増の176億400万円、経常利益は22・0％増の17億2500万円、純利益は23・2％増の11億770万円だった。

新型コロナウイルス下で病院や介護施設での衛生意識が高まり、CSセットの利用が広がった。6月末時点のサービス導入施設数は前期末（21年12月末）より131増えて、1945施設となった。

22年12月期の連結業績予想は売上高370億円、経常利益30億2千万円で変更していない。

資材高騰影響

受注件数減で 純利益16.6％減
土木管理総合試験所

土木管理総合試験所（長野市）は10日、2022年6月中間期の連結決算を発表した。建設業界で資材価格が高騰した影響で、適正価格での受注が難しくなり受注件数を減らし、売上高は前年同期比3・2％減の32億9200万円だった。経常利益は12・3％減の2億5100万円、純利益は16・6％減の1億4300万円だった。

事業別の売上高は、主力の試験総合サービスが7・4％減の27億900万円。建設物の地盤調査・改良工事の地盤補強サービスは、受注が増えて18・2％増の2億7700万円。熱流体解析ソフトなどのソフトウエア開発販売は、新規販売が増えて2億9100万円だった。

22年12月期の通期の連結業績予想は、下半期に挽回するとして売上高80億500万円、経常利益6億3300万円、純利益3億7800万円で変更していない。

県内企業

四半期決算
（増減は前年同期比）

ヤマウ
予想を

ヤマウラ
日、5月に
年3月期の
方修正した
事の受注が
前回予想を
0億円（前
に引き上げ
情報通信
活用などに
で利益率が
は1億5千
千万円（26
益は1億円
円（25・1
同日発表
期の連結決
倉庫などの
高が前年同
56億7200
や価格高騰
常利益は19
1100万円、
％減の2億
た。

常損失5億9
同期は損失6
▽純損失5億
5億400万